

部名	経済スポーツ部	課名	スポーツ推進課
----	---------	----	---------

1. 基本情報

事務事業名	16 友田レクリエーション広場管理事業				事業類型	施設運営受益者負担型				
予 算	会計	10 一般会計	款	10 教育費	項	05 保健体育費	目	01 スポーツ推進費	予算額	8,128 千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいきづくまち		施策分野	4 スポーツ・レクリエーション		基本施策	(2) 体育施設の整備と管理運営の充実		
実施計画	事業番号・事業名 4-6 青梅市スポーツ推進計画の策定・推進									
関連計画	青梅市スポーツ推進計画									
根拠法令等	青梅市体育施設条例									

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	市民	目的（どうい状態にしたいのか）	市民の体育およびレクリエーションその他社会教育の振興を図り、心身の健全な発達に資する
-----------	----	-----------------	--

3. 事業の指標と単位当たりコスト

成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	平成31年4月1日現在人口 133,574 人			市民1人当たりコスト(b/人口)
					30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A	
利用者数	各施設利用者合計数	人	目標			4,329	4,329	187.8 円
					実績	4,329	4,162	-167
					単位コスト	円 14,858 円	円 6,028 円	円 -8,830 円
稼働率	利用枠数/利用可能枠数	%	目標			17.2	17.2	
					実績	17.2	19.0	1.8
					単位コスト	円 3,739,477 円	円 1,320,474 円	円 -2,419,003 円

4. 行政コスト計算書

勘定科目					勘定科目					
年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A	区分	年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A	区分	
職員給与費	1,005	710	-295	経常収益	分担金・負担金	0	0	0	財源	
賞与等引当金繰入額	89	63	-26		使用料・手数料	70	94	24		
退職手当引当金繰入額	0	0	0		その他	20	29	9		
その他	0	0	0		合計 (a)	0	90	123		33
小計	0	0	0		臨時損失 (c)	0	0	0		0
物件費	9,136	8,111	-1,025	臨時利益 (d)	0	37,884	37,884	37,884		
維持補修費	0	0	0	臨時損益 (d-c=e)	0	0	37,884	37,884		
減価償却費	54,073	16,189	-37,884	純行政コスト (f)=(b-a)-e	0	64,229	-12,918	-77,147		
その他	0	14	14							
小計	0	63,209	24,314	-38,895						
支払利息	0	0	0							
その他の業務費用	0	0	0							
その他	16	2	-14							
小計	0	16	2	-14						
小計	0	64,319	25,089	-39,230						
補助金等	0	0	0							
その他	0	0	0							
小計	0	0	0							
合計 (b)	0	64,319	25,089	-39,230						

(単位：千円)

区分	年度	30年度	元年度
有形固定資産減価償却率		90.8	87.0
受益者負担割合 (a/b)		0.1	0.5

5. 人員体制

	年度	30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A
職員		0.12	0.0845	-0.0355
再任用職員		0.00	0.00	0.00
嘱託職員		0.00	0.00	0.00
計	0.00	0.12	0.0845	-0.0355

(単位：人)

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	・管理運営委託料（指定管理料） 8,110,500円	・使用料内訳（スポーツ推進課・市民センター等受付分） ソフトボール場：2,400円、庭球場：91,600円 ・その他内訳 退職手当引当金減額分 29,000円
主な増減理由	体育施設全体における指定管理料の配分見直しによる指定管理運営委託料の減	【経常収益】 市民センターおよび市役所窓口で受理した使用料の増 【臨時利益】 前年度の減価償却費が過剰であったことに伴う過年度損益修正を行ったことによる増

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A		
資産の部	有形固定資産	事業用資産	0	0	固定負債	地方債	0	0		
		土地	0	0		退職手当引当金	1,019	689	-330	
		建物	0	0		その他	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0		1年内償還予定地方債	0	0	0	
		その他	0	0		未払金	0	0	0	
		インフラ資産	74,459	96,570	22,111	流動負債	賞与等引当金	0	0	
		土地	764	764	0		その他	0	0	0
		工作物	495,064	495,480	416		合計	1,019	689	-330
		減価償却累計額	-471,357	-448,493	22,864		固定資産等形成分	74,459	96,570	22,111
		その他	49,988	48,819	-1,169		余剰分(不足分)	-1,019	-689	330
	物品	2,250	2,250	0	純資産の部	合計	73,440	95,881	22,441	
	減価償却累計額	-2,250	-2,250	0		負債および純資産の部 合計	74,459	96,570	22,111	
	無形固定資産	0	0	0						
	投資その他の資産	0	0	0						
	流動資産	現金	0	0		0				
未収金	0	0	0							
徴収不能引当金	0	0	0							
その他	0	0	0							
合計	74,459	96,570	22,111							

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	インフラ資産(土地)	勘定科目	インフラ資産(建物)
決算額の主な内訳	友田レクリエーション広場敷地面積 286.84平方メートル	決算額の主な内訳	友田レクリエーション広場管理棟 鉄筋コンクリート造2階建 94.13平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

30年度末時点の課題事項	庭球場利用者が減少しており、主な要因として利用団体が主催する大会規模の縮小が考えられる。利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図る必要がある。	対応結果	一部解決	事業目的を達成するための元年度事業目標【Plan】	利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図っていく。	
事業目標達成に向けた主な活動実績・効果【Do】	台風第19号被害により護岸が崩落する等の被害が発生したため、安全柵の設置等の復旧対応を行い、早期に施設の開放を再開した。なお、ソフトボール場が使用不能となっている。					
視点別事業評価【Check】			事業目標達成度評価【Check】			
【必要性】事業の公共性 市民ニーズ	高い(一定の必要性あり)	【効率性】費用対効果	良い(改善の余地あり)	【有効性】事業目的に対する事業実施の効果	高い(改善の余地あり)	相当程度進展あり
元年度末時点の課題事項【Check】	崩落した護岸部分の復旧について目途が立っていない。	今後の方向性【Action】	改善	次年度の取組【Action】	国土交通省京浜河川事務所等の関係機関と協議し、護岸崩落部の復旧について方策を検討する。	

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	<p>本広場は、ソフトボール場、ゲートボール場および庭球場3面を有しており、市内スポーツ団体が主催する大会会場としても利用されているものの、同種他施設と比較すると利用者数も少なく、特に稼働率については、最も低い状況となっている。</p> <p>台風第19号の影響によりソフトボール場が現在使用不能となっていることから、利用者の減が予想されるため、今後も指定管理者と協力して新しい生活様式に対応しながら施設の魅力づくりに努めるほか、市民に対し利用機会の掘り起しを図るべく施設のPRに努め、稼働率を上げる工夫をすることとする。</p>
----	---